

竹富町役場新庁舎整備事業 TAKETOMI TOWN HALL

基本設計概要 2020.11.16



1. 建築概要

用途	役場庁舎、 町関係機関事務所、宿泊施設		
構造	鉄骨造		
敷地面積	1,984.03 m ² (600坪)		
建築面積	1,299.60 m ²	建蔽率	65.5% ≤ 80%
容積率対象延床面積	4,332.67 m ²	容積率	219% ≤ 400%
延床面積	5階 : 228.86 m ²	ゴミ置場	7.56 m ²
	4階 : 1,029.60 m ²	バイク置場	89.34 m ²
	3階 : 1,039.35 m ²	自転車置場	20.16 m ²
	2階 : 1,009.96 m ²	外部計	117.06 m ²
	1階 : 1,017.34 m ²		
	庁舎計	4,325.11 m ²	合計
階数	地上5階		
最高高さ	22.5 m		
駐車台数	17台		
駐輪台数	70台 (自転車20台、ミニバイク50台)		

2. 位置図



3. 仕上表

外部仕上概要	
部 位	仕 上
屋根	塗膜防水(歩行用)
外 壁	押出成形セメント板
	琉球石灰岩
庇	アルミパネル、(軒天)不燃木板貼り
外部開口部	アルミサッシ
	Low-Eペアガラス(高遮熱高断熱複層ガラス)、強化ガラス(エントランス廻り)
舗 装	琉球石灰岩、浸透性アスファルト舗装
外構付属物	掲揚台、屋外掲示板、境界フェンス、排水設備
植 栽	高木、中木、低木、地被類

内部仕上概要			
室 名	床	壁	天 井
交流ラウンジ	磁器質タイル	琉球石灰岩・仕上塗材	EP塗装
事 務 室	OAフロアの上ビニル床タイル	EP塗装	岩綿吸音板
町長室・応接室	タイルカーベット	木目調ビニルクロス	岩綿吸音板
会議室・打合室	ビニル床タイル	ビニルクロス	岩綿吸音板
印刷室・給湯室	ビニル床シート	EP-G塗装	化粧石膏ボード
議 場	カーベット	木目調ビニルクロス	岩綿吸音板
厚生室	畳	ビニルクロス	化粧石膏ボード(木目調)
倉庫・書庫	ビニル床シート	EP塗装	化粧石膏ボード
電気室・発電機室	合成樹脂塗床	ガラスクロス貼りGW	ガラスクロス貼りGW
階段・廊下	ビニル床シート	EP-G塗装	EP-G塗装、岩綿吸音板
WC	ビニル床シート	化粧ケイカル板	EP-G塗装
町関係機関事務所	OAフロアの上ビニル床タイル	EP塗装	岩綿吸音板
ファミリーサポートセンター	ビニル床タイル	ビニルクロス	岩綿吸音板
宿泊室	ビニル床シート	ビニルクロス	ビニルクロス
廊下	ビニル床シート	EP-G塗装	EP-G塗装、岩綿吸音板

4. 総事業費

3,062,400,000円(税込)

設計主旨

1. 基本理念

■施設計画の基本理念》》時と場所を超え島々を繋ぐ庁舎

石垣港を拠点とする当施設は「未来にはばたくまちづくり」の拠点として、島間交通・流通体系の充実を基盤としてユニバーサルデザインを推進します。高度で先進的な情報技術を基盤にし、「結の心で島じまを同時につなぐ」ことで、在宅・見守りサービスの充実や町民の参画や協働のための仕組みづくりを模索し、まちの多様性を拡張してユイマール精神を養う次世代型の庁舎を目指します。

■大自然と文化と暮らしがともに生きる「ばいぬしま」の実現を図る施設

島じまの誇りと個性がきらめく日本最南端の「文化の息吹くまちづくり」を追求し、それぞれの地域特性を大切に「魅力あるオンリーワンの伝統文化」を発信して保存継承への礎とします。島じまに根ざした地域づくりのために安心・安全を支え、社会資源、コミュニティ資源を活かした農・産業基盤の構築により、夢を持ち未来に向かってたくましく生きる「ばいぬ島っ子」を育成し、次世代を切り拓きます。

■SDGsから考える環境保全と国際的役割を担う発信する場

地球温暖化に伴う海面上昇等への影響は、島じまに顕著に現れます。海洋保護区の制定による生態系保全、海面利用ルールづくりを促す「自然の生きるまちづくり」の情報提供を行います。海の日や海の月間での行事や青少年教育を通じて台風・高潮などの自然災害対策の必要性を啓発し、水資源の開発・確保の必要性を喚起します。エコツーリズム・グリーンツーリズム普及による滞在型観光、海洋リクリエーション推進を雇用・就労の場づくりへと誇ります。

2. 防災対策

■災害時の機能を維持する庁舎》》BCP（業務継続性）への対応

町民の生命財産を守るためには、その拠点である庁舎そのものが最も安全な場所である必要があります。あらゆる事態に対し冷静、的確に対処できるよう耐震・耐火性能に優れた建物とし、万一インフラが遮断された際にも施設機能が維持できる計画とします。

- 浸水対策を考慮し設備室（電気室、発電機室、受水槽）は5階に設置し、インフラ復旧の目安となる72時間（3日分）の自立機能を維持します。
- 地下ピットに設けられた排水槽を設置し、地震等で下水本管が破断した場合は汚水雑排水を繋ぎます。
- 屋上に太陽光発電パネルを設置し日常の電力の確保と、災害時必要な部署に供給し機能を維持します。
- 交流ラウンジは災害時には地域の人々の一時避難所やボランティア基地として、庁舎機能を維持したまま開放が可能です。また、掲示板やディスプレイにより防災意識を高める掲示を行うとともに、災害時には被災の状況等の重要な情報を提供します。

3. 環境対策

■亜熱帯気候における環境にやさしい庁舎づくり

[建築]

- バルコニーによる庇効果により、開口部及び躯体への日射負荷を抑制します。
- 東西面開口部には高遮熱高断熱複層ガラスを用いて日射による熱負荷をカットします。

[電気]

- 執務室など常時人工照明を使用する空間や外灯にLED照明を採用し、廊下やトイレは人感センサーによる自動点滅機器を導入して使用電力を削減します。
- 屋上に太陽光発電を設置し、危機管理に役立つとともに常時の節電をはかり、発電量を液晶画面を通じて公表（見える化）して環境配慮への貢献を共有します。
- EV車の充電設備の設置を公用車庫内に設置します。

[空調]

- 各室の用途、使用時間、負荷変動の追従性を考慮し、個別熱源方式（マルチパッケージエアコン、個別エアコン）を採用します。
- 室外機は北面の日影に配置して、機器の運転効率を高めるよう配慮します。
- 熱源は安全性、経済性、保守性等を検討し、離島の特殊性を考慮し、維持管理の容易な電気方式（EHP）とします。
- 換気は外気処理エアコンを設置し、外気を処理し給気を行い、便所・倉庫等より排気する換気システムにより、熱負荷の軽減を図りエネルギー使用量を削減します。
- 個別空調機器設置室は全熱交換機を設置し、吸排気を行うと同時に熱回収を行います。
- ZEB Ready建築物として施設のランニングコストの低減を図ります。

4. 緑化計画

■緑豊かなまちづくりへの貢献》》石垣市のモデルとしての場づくり

- 石垣市が推進する「石垣市風景計画」に添って、緑を維持・保全し、緑豊かな環境を創出します。景観誘導として提示されている沿道緑化を行い、図書館や新栄公園から美崎町公園の緑が連続する計画とします。
- 来庁者と職員に快適な施設環境を目指します。地域固有の植物を計画することで、竹富町らしさのある庁舎とします。来庁者の交流の場だけでなく、職員の食事のスペース等にも緑を配置することで、職員もリラックスして働けるような職場環境づくりをめざします。

5. 景観計画

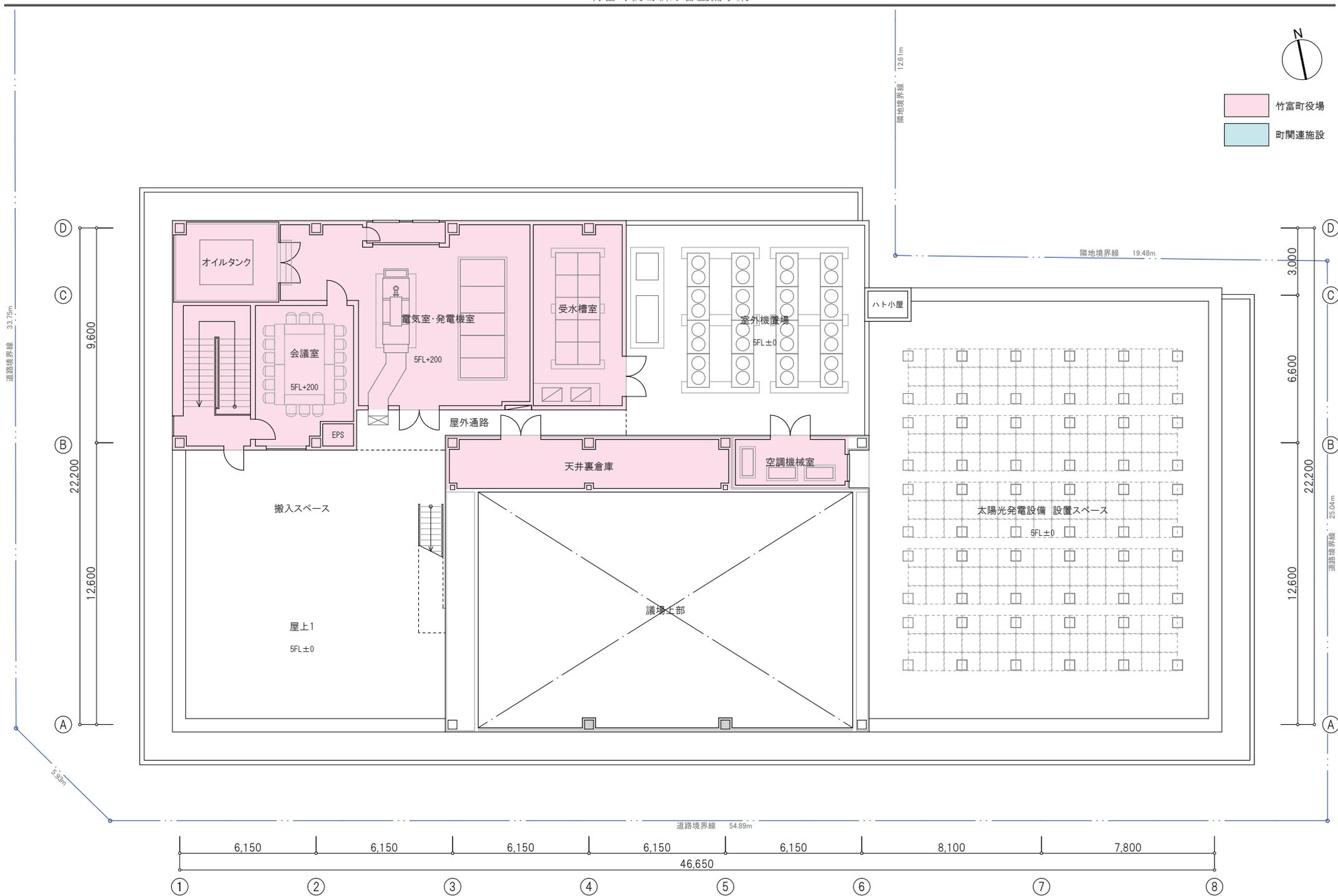
■竹富の景観づくり》》島に対する人々の想いを映す鏡

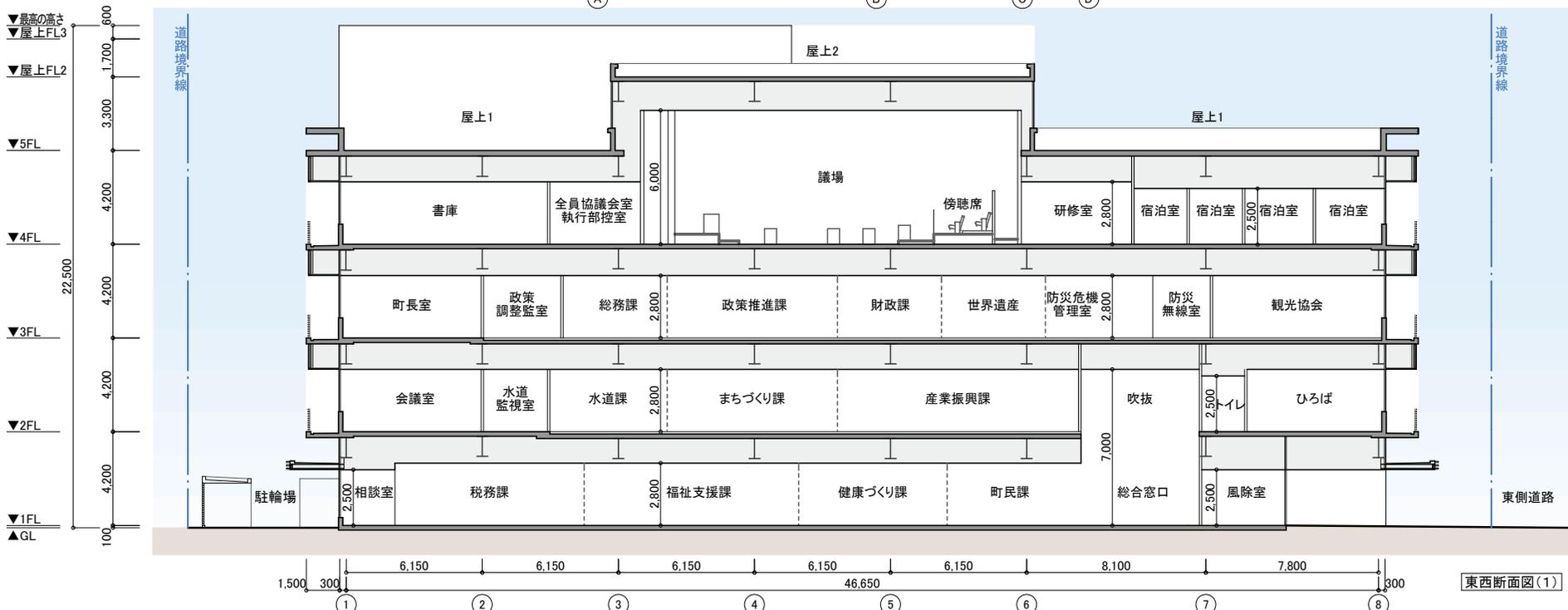
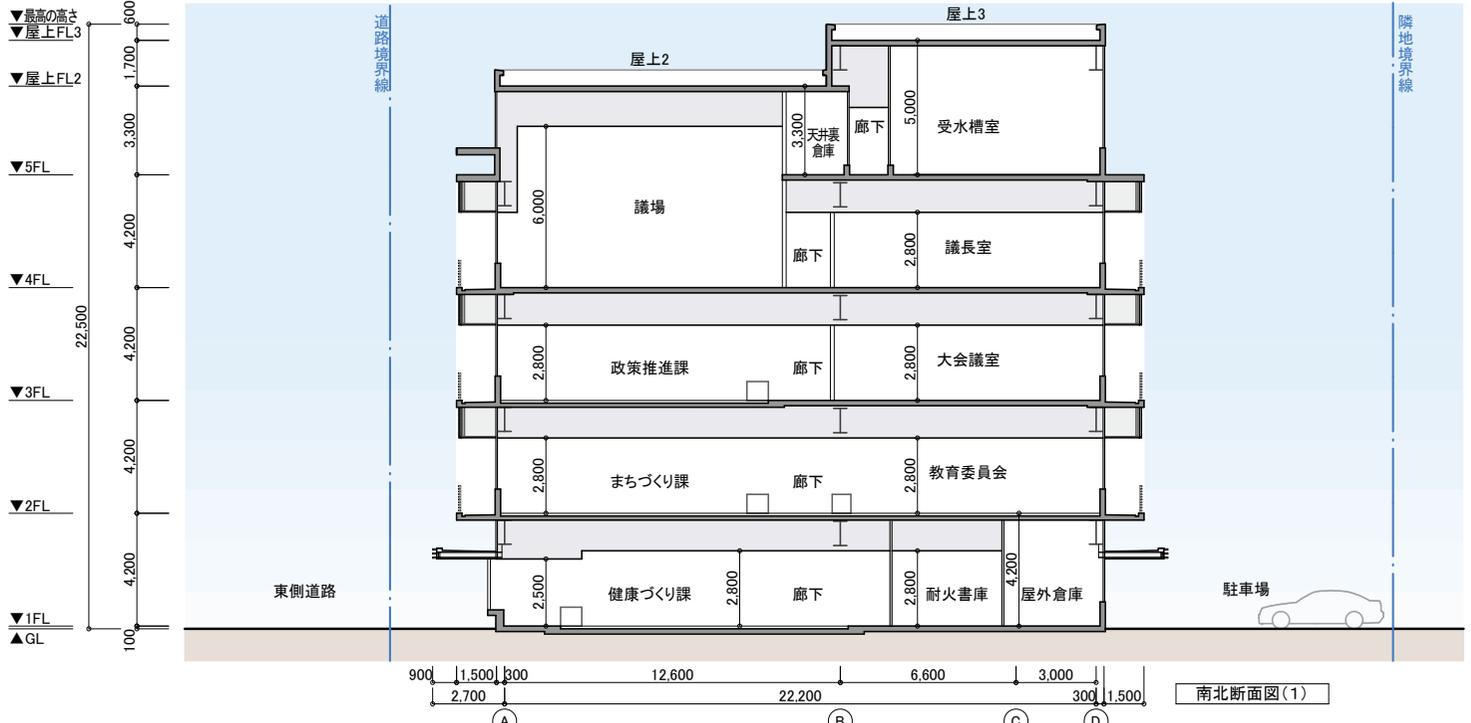
景観とは長年にわたって培われてきた歴史や文化、暮らしなどを反映したものでなければならず、その土地固有の表現でなければならないと考えています。その自然と風土を深く理解することが竹富らしい景観づくりの第一歩です。景観の特性を読み解くことで、地域の風土に根ざした良好な景観形成を図り、将来の世代に引き継ぐべき原風景・心象風景を創出します。

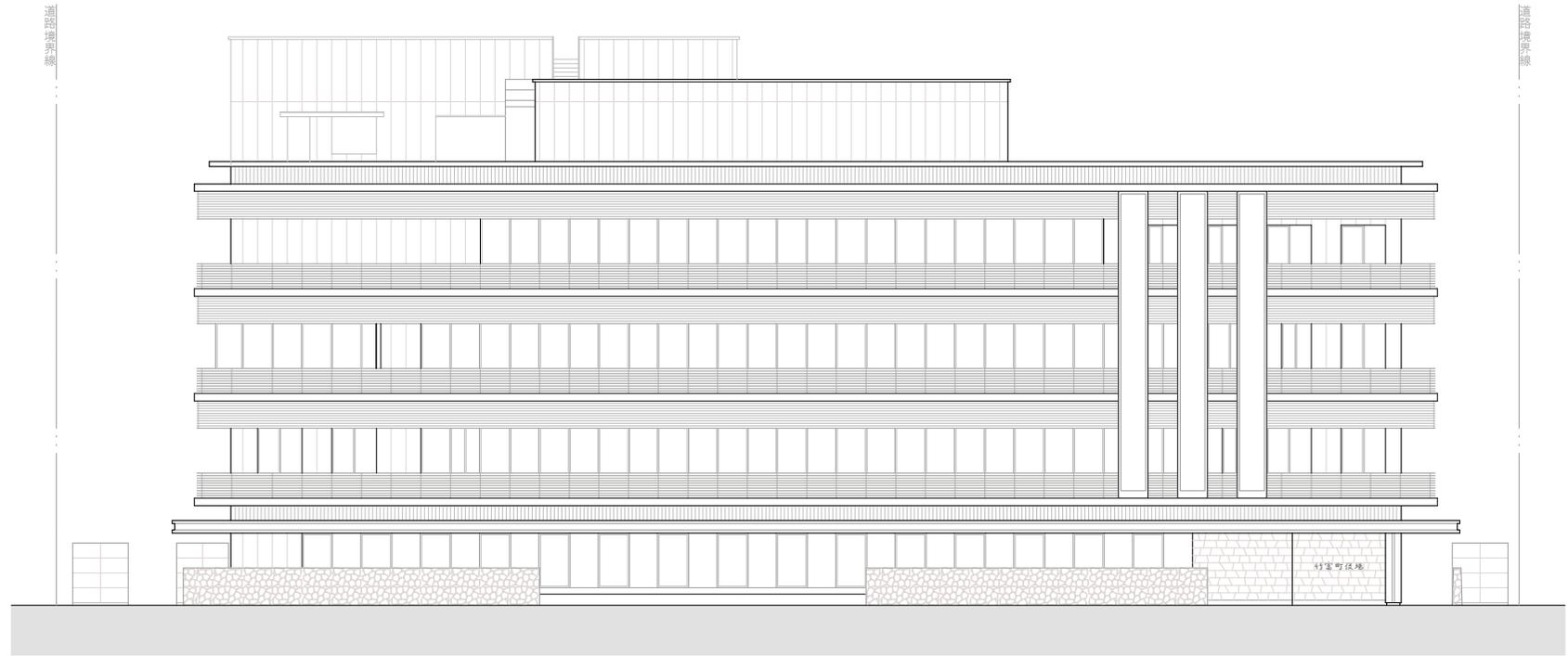
竹富町役場新庁舎整備事業











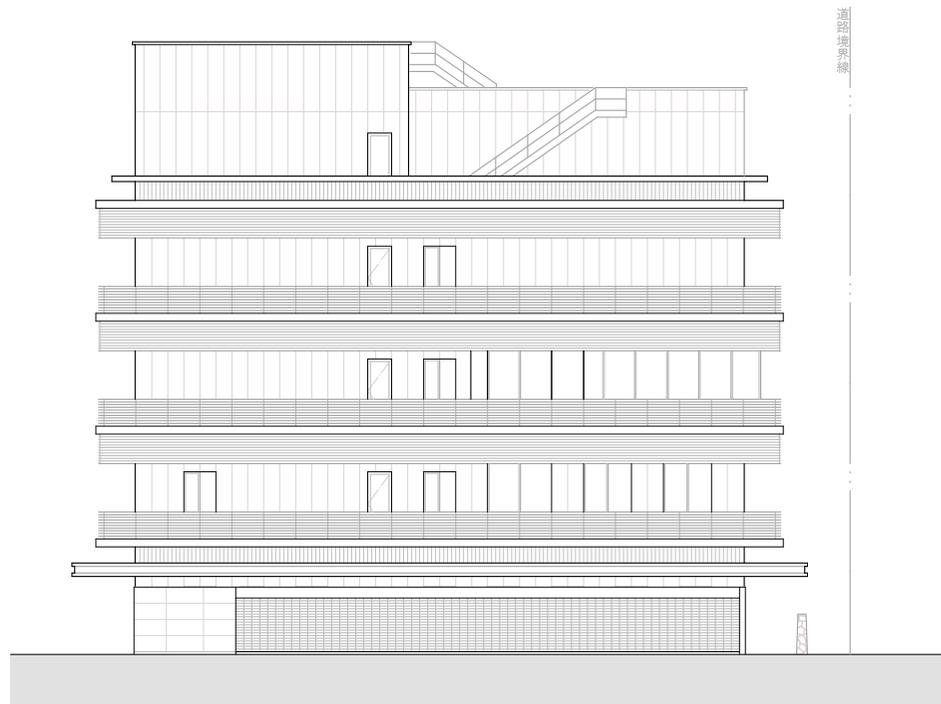
南立面図



東立面図



北立面図



西立面図